

平成 28 年度新規課題

研究区分	革新（先導プロ）	試験期間	H28～32
課題名	海外遺伝資源等を活用した極多収大豆育種素材の開発		
関連の重要研究課題名	I-1-(1) 病害虫や気象変動に強い高品質オリジナル普通作物品種の育成		
主担当試験場・部	野菜花き試験場・畑作部（代表機関：（国研）次世代作物研セ）		

【現状と課題】

世界は過去 30 年以上継続して大豆平均単収が向上しているが、日本や長野県（約 170kg/10a）は 1990 年頃から横ばい状態となっている。世界の単収増の要因として多収品種育成の効果が大きい。そこで、海外の多収品種と交配し、現状の平均単収の約 3 倍となる 500kg/10a を達成できる超多収系統を育成する。

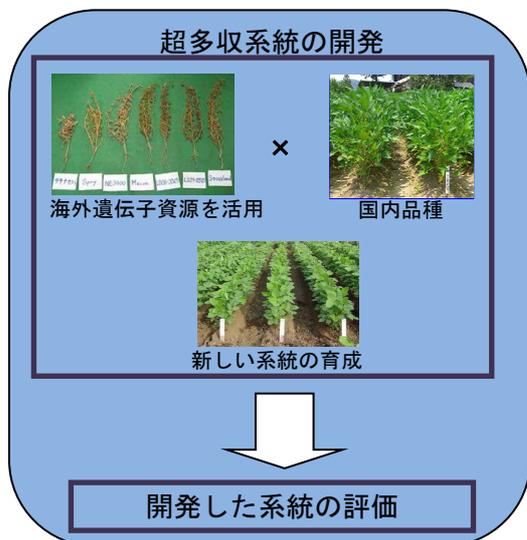
【試験研究計画】

- 1 海外遺伝子等を活用した大豆多収系統の開発
  - (1) 超多収系統の開発（長野県 他 5 機関）
  - (2) 開発した系統の評価  
（（国研）中央農研セ 他 2 機関）
- 2 多収遺伝資源の遺伝的基盤の解明  
（（国研）次世代作物研セ 他 5 機関）

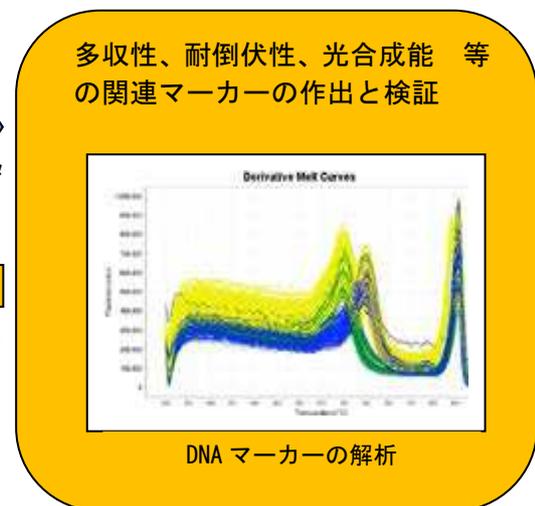
世界に比べて低い日本の大豆単収



海外遺伝子等を活用した大豆多収系統



多収遺伝資源の遺伝的基盤の基盤の解明



【期待される成果】

1. 多収に関する DNA マーカーが作成され、品種選抜の効率が向上する。
2. 長野県に適する超多収・耐倒伏性系統が育成できる。
3. 品種育成により、大豆の単収向上と機械収穫等の作業性向上が図れる。